

地図を子どもにとって身近な存在にするために

大阪府 公立小学校教諭

1. はじめに

本学級の子どもたちは、地図帳での地名探しを意欲的に取り組む。こちらが、ページの指定を行うまでもなく、一番に探した児童からページ番号や行番号、列番号を発表し、教えあうという雰囲気ができている。

社会科学習以外においても、地図活用する場を進展で取り入れることによって、子どもたちの地図に対する意欲的な姿勢をさらに高めることができるのではないかと考えている。以下はその取り組みの一端である。

2. 地図活用の実際

【国語の時間】最近の国語の教科書には環境問題を扱った説明文が取り上げられることが多い。その中には、内容に関連する写真や地名がたくさん掲載されている。「森林からのおくりもの」の学習では、それらの場所を地図帳で確認し、地図を生かして、その土地のようすや本文とかかわりのありそうな土地の情報を集めたりする活動を取り入れた。

また、「人間の生き方をえがいた作品を読もう」ではマザーテレサが取り上げられている。テレサの足跡を地図帳でたどり、インドの位置やカルカッタの当時のようすについても調べることができた。物語文では宮沢賢治の作品が取り上げられている。地図帳では、「宮沢賢治記念館」が掲載されている。これをもとに、賢治の作品やふるさとの関心をもたせることができるのではないかと考えている。

【校外学習の事前・事後学習】校外学習や宿泊学習の前後に、実際に自分が乗り物で通るルートを確認する時間を取り入れた。

本校の5年生は、7月に兵庫県北部にある「ハチ高原」において林間学舎を実施する。

バスで通る高速道路（中国自動車道、播但自動車道）を確認したり、車窓から見られる川や山のようすを調べたりした。その中で、バス以外の交通手段についても関心をもつ児童もいた。

実際に行ってみると、途中でトンネルを越えると、川の流れる向きが変わっていることに気づいた児童

がいた。（兵庫県朝来市生野付近）事後学習において地図帳で調べてみると、そのトンネルが分水嶺を越えていたことがわかったのである。



帝国書院『小学生の地図帳（初訂版）』p.27

このように、地図をもとに風景を予想したり、自分の発見を地図で確認したりすることによって、子どもの思考の中で地図と実際の土地のようすが行き来され、子どもの空間認識を深めることになるのではないだろうか。

【本校の特色から】本校は、帰国児童受け入れのセンター校としての役割を担っている。したがって、国際理解教育を推進し、その一環で世界と日本とのかかわりについて学習する機会が多い。また、英語学習においては、外国の方の講師を招いて学習を行っている。それらの学習の中で、帰国してきた児童の滞在国や講師の先生の国についてまず地図帳を使って、調べることにし、交流の輪を広げるきっかけにしている。

3. おわりに

ほかにも、以前この冊子で紹介されているように、朝学習のスピーチで取り上げられる地名を地図帳で確認したり、統計を算数で取り上げたりするなどの試みを行っている。

私自身は地図を眺めることが好きである。眺めながらその土地を想像したり、自分の旅の振り返りをしたりすることが好きなのである。これは、見えるものから、見えないものを想像したり、自分自身の足跡を確認したりすることができるからではないかと考えている。この未知なるものへの想像や自分自身の振り返りをするきっかけを子どもたちに与えてくれるのが地図帳だと考えている。